

市町村合併

なぜ今、合併しなければいけないのでしょうか？ 岡谷市はできるところからの 合併を目指します！

国民一人当たりの国・地方を合わせた借金は、
約550万円です。

国……約390万円、地方（県・市町村）……約160万円

岡谷市の財政は、今は健全です。（諏訪市、下諏訪町も健全です）

（平成14年度決算 一人あたりの額）

	岡谷市	諏訪市	下諏訪町	平均・合計
人口 〔15.3.31現在〕	55,764人	52,440人	23,319人	131,523人
地方交付税 （総額）	76,545円 (4,268,436千円)	45,828円 (2,403,198千円)	64,810円 (1,511,306千円)	62,217円 (8,182,940千円)
基金残高 （総額）	127,781円 (7,125,565千円)	71,860円 (3,768,357千円)	64,035円 (1,493,243千円)	94,183円 (12,387,165千円)
起債残高 （総額）	454,157円 (25,325,643千円)	390,159円 (20,459,959千円)	405,334円 (9,451,989千円)	419,984円 (55,237,591千円)
起債制限比率	8.0%	9.3%	12.3%	9.9%

でも、国の三位一体の改革で、数年後には財政が苦しくなります。

〔すでに、岡谷市の平成16年度予算編成においても、国庫補助負担金や地方交付税などの減額分と税源移譲を差し引くと、歳入面への影響額は約6億4千万円減額となっています。〕

足腰の強いうちに合併して、夢のある新しいまちを築く必要があります。

そのため、できるところからの合併を進めるため、4月以降、

岡谷市・諏訪市・下諏訪町の湖周3市町で合併協議を続けていきます。

任意合併協議会が

行われました

去る2月26日（木）、諏訪地域6市町村任意合併協議会が諏訪市総合福祉センターで開催され、今年3月31日付で任意合併協議会を解散することが決定されました。

また、新たなまちづくりの方向や事務事業の調整の素案、財政計画などを、3市町などの事務段階で調整することになりました。

今後もできるところからの合併を目指し、法廷合併協議会の設置を目指していきますので、市民のみなさんのご理解、ご協力をお願いいたします。



最終の任意合併協議会のようす（2月26日）

◆合併に関するお問い合わせは

広域合併推進室

☎23-4811

（内線1521）

行政評価システムを導入します

～より効果的・効率的な市政運営を目指し、

平成16年度から行政評価システムを本格導入します～

●行政評価とは？

行政評価とは、行政サービスの効果について、客観的な評価を行い、その評価結果に基づいた改善を次の企画立案、実施に反映させることにより、効果的・効率的な市政運営を図っていくものです。

民間企業の経営管理手法である Plan-Do-Check-Action (PDCA) マネジメントサイクルを実践し、市民満足度の向上を目指します。

●行政評価の必要性

景気の長期低迷による財政状況の悪化、少子高齢社会の到来による市民の行政ニーズの多様化等行政の置かれている環境は大きく変化しています。

このような状況のなかで、透明性を高くし、限られた行政資源の最適配分と配分された資源の効率的活用により、多様な市民ニーズに応えていくために行政評価が有効な手段となるものです。

●行政評価システム導入の目的

行政評価システムは、単なる事務管理システムではなく、自治体の経営体質を改革するためのツール（道具）です。しかし、行政評価を導入すれば何でもうまくいき、全ての問題が解決するという雰囲気

気になるのは危険です。

したがって、導入にあたっては、その目的（何のために行政評価を導入するのか）を明確にすることが重要となります。

岡谷市においては、次に掲げる3つの目的に重点をおいて行政評価システムを導入します。

①職員の意識改革、政策形成能力の向上

成果志向、目的意識の向上、コスト意識の向上といった職員の顧客志向による意識改革を図るとともに、このシステムを継続的に運用することにより、職員の政策形成能力の向上を図ります。

②事務事業執行の改革改善

事務事業を進めるうえで、客観的評価を基に課題を認識し、次の改善に繋げていくことで効果的に効率的な事業展開を図ります。

③重要性の低い事業の休廃止、事業の優先順位付け

厳しい財政状況のなかで、まちづくりを進めるためには、事業全般の経費削減だけでは限界があり事業自体の休廃止の検討や、優先的な事業の選択を実施する必要があります。

事業の休廃止や優先順位付けには、各事業を括った施策評価が必要となりますが、施策評価は、事業事業評価が定着した後実施をしていきます。

●どのようにして行うのか？

市が行っている病院を除くすべての事務事業を第3次岡谷市総合計画の政策体系に沿って約800件に整理し、事後評価（決算評価）を行います。

平成16年度は、15年度に実施した事務事業の評価を行います。

評価は「一般事業」「建設事業等」「内部管理事務等」の3種

類の評価表により行います。一般事業は、妥当性、有効性、効率性の観点から評価を行い改善に繋がります。建設事業等は、進捗度を中心とした評価を行い、課題を認識しその対応に繋がります。内部管理事務等は、有効性、効率性の観点から評価を行い改善に繋がります。

●評価表の内容

一般事業の評価表は下記のPDCAマネジメントサイクルに従って構成されています。

Check (事業の評価)

妥当性
有効性
効率性
の視点から評価し
問題点を把握する。

Do (事業の内容)

事業の目的
・誰のために(受益者)
・どのような状態にしたいのか(意図)
・誰(何)を対象とするのか(対象)
事業の実施内容、活動指標・成果指標、事業費等を明確にして目標に向かって事業を実施する。

Action (改善)

把握した問題点への対応として具体的な改善を有効性、効率性の面から考える。
・事業の総合評価を行い、今後の方向性を検討する。

Plan (来年度の事業計画)

改善や方向性を踏まえ次年度の事業計画を立てる。

◎作成した評価表は、評価結果としてすべて公表していきます。

岡谷市教育委員会では、平成14年度から始まった「完全学校週5日制」を受けて、市内の小・中学校に通う子どもたちが「休日」を「どのように過ごしているか」、また、「どのように過ごしたいか」という実態と希望について調査しました。また、併せて、保護者を対象に「子どもの自立に対する考え方」をお聞きしました。今回、平成15年度に実施した2回の調査結果をまとめましたので、一部についてお知らせします。

調査は、小学校3年生から中学校3年生までの7学年の子どもに対し、休日に行ったこととして①友だちと遊ぶこと、②家族と出かけたり、遊んだりすること、③勉強をすることなど8項目を挙げて、それぞれについて「よくした」、「たまにした」、「あまりしなかった」の3段階で取り組み頻度を答えてもらうとともに、同じ項目について、希望としては「もっとしたい」のか「あまりしたくない」のかを答えてもらいました。

平成15年度

「児童・生徒意識調査」

アンケート結果

〈概要〉

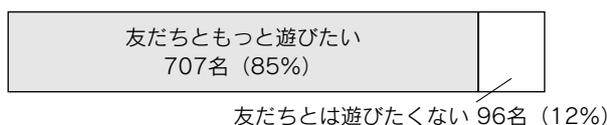
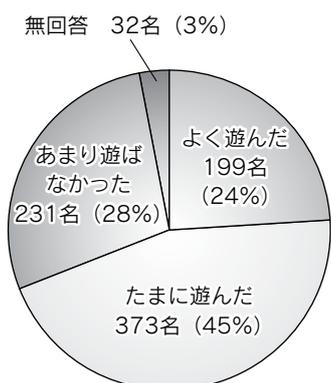
◆調査時期

第1回目…平成15年8月 調査数449名

第2回目…平成16年2月 調査数386名

合計 835名

Q お休みの日に「友だちと遊ぶ」ことについて



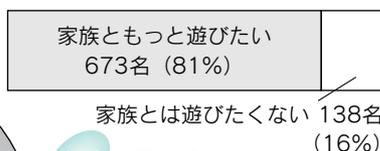
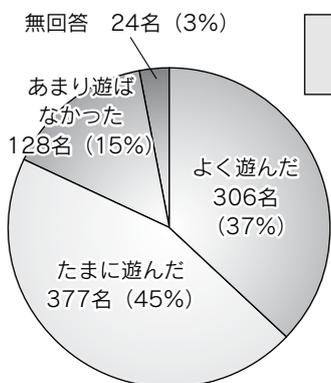
集計結果から…

「友だちとの遊び」については、「たまに遊んだ」、「あまり遊ばなかった」と答えた子どもが多い結果となりました。

一方で、希望としては「友だちともっと遊びたい」と望んでいる子どもが85%もいる結果になっています。

保護者の意見では「本当は外で思いっきり遊ばせてあげたいが、事件や事故に巻き込まれるのではないかという不安から、自由に遊ばせることができない」との回答が多数ありました。回答を学年ごとに見ても、特に差は見られませんでした。

Q お休みの日に「家族とふれ合う(遊ぶ)」ことについて



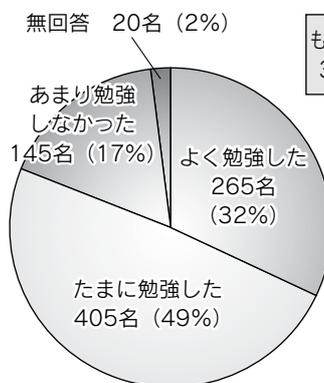
集計結果から…

「友だちと遊ぶこと」での集計結果に似た結果となりましたが、「友だち」に比べて「家族」と遊ぶことの方が頻度が高いことがわかります。

学年ごとの特徴としては、

小学校低学年ほど「家族とのふれ合い(遊び)」を望み、小学校の高学年、中学生になるにつれて徐々に「もっと遊びたい」と望む回答割合が減っていく結果になりました。

Q お休みの日に「勉強すること」について

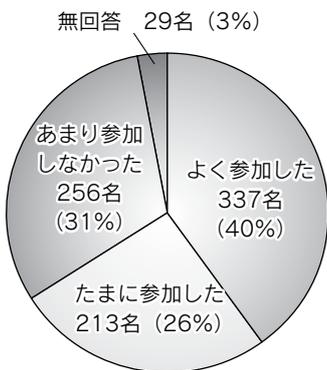


集計結果から…

勉強への取り組みについては、約8割の子どもたちが「少なからず行っている」結果となりましたが、希望では約6割の子どもたちが「勉強したくない」と答えています。

学年ごとの特徴としては、顕著な差ではありませんが、小学生と中学生で比べたときに小学生の方が「よく勉強している」結果となっています。

Q 「子ども会活動」への参加について



もっと参加したい 429名 (51%)	参加したくない 377名 (45%)
------------------------	-----------------------

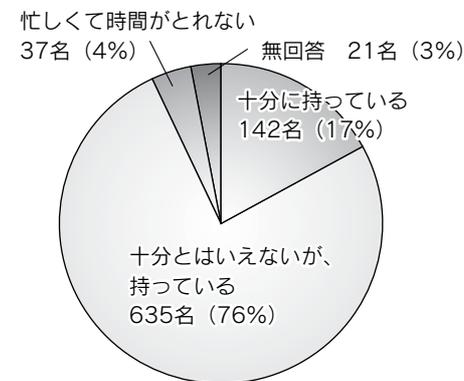
集計結果から…

子ども会活動については、「よく参加した」がもっとも多いものの、いずれの選択肢も200名を超える結果となりました。

希望を見ても「もっと参加したい」の方が多いものの、差は無いことが分かります。学年ごとの特徴としては、小学校3年生から6年生では「もっと参加したい」と望む子どもが圧倒的に多く、中学校1年生から3年生では「参加したくない」と答えた子どもが圧倒的に多い、両極端な結果になっています。

保護者の意見では、「地域行事に積極的に参加させたい」という意見が多くありました。

Q 家庭における「子どもとの対話の時間」の有無について



集計結果から…

毎日の生活の中で、「子どもと対話する時間」を持っているかという質問に対しては、約9割の家庭で「少なからず対話する時間を持っている」という結果になりました。

子どもの学年での差はありませんでした。

これらの質問とあわせて、保護者に自由記述式でお聞きした「子どもの自立に向けた工夫、考え方」では、「子どもと対話すること」を重視している家庭がもっとも多い結果となっています。

★保護者の意見から

「子どもの自立に向けた各家庭での工夫や考え方」

- ◆子どもがやりたいことを親も一緒に行い、お互いの接点として対話を重ねることにより理解を深めるようにしている。
- ◆家族の一員であることを自覚できるよう、生活での役割分担を与え、責任を持ってやってもらうようにする。
- ◆どんなときも、家族全員で夕食をとるように心がけている。
- ◆地域のイベントに積極的に参加し、多くの人との関わりを持つことにより、いろいろな考え方があることを学ぶようにしている。

「子どもの生活における心配点について」

- ◆学力の低下
- ◆登下校時における事件や事故（不審者など）
- ◆家庭ごとの価値観の違い
- ◆人とのコミュニケーション不足（パソコンやテレビゲームの普及による）
- ◆携帯電話の乱用 など

★教育委員会からひとこと

この調査は、次代を担う子どもたちが“たくましく”成長することを願い活動している機関や団体に、子どもの生活実態や思い、ならびに保護者の考え方や不安を知ってもらい、事業運営に役立ててもらうことを目的として実施しています。

平成16年度も継続して実施していきたいと考えていますので、児童・生徒をお持ちのご家庭のみなさんには、引き続きご協力をお願いします。

また、ご関係のみなさんで、集計結果を詳しく知りたいという方は下記までご連絡ください。

岡谷市教育委員会 生涯学習企画課 社会教育担当 ☎23-4811 (内線1461)